

# 本興寺だより

令和六年 三月  
第二五五号

「法華経を信じる人は冬のごとし、冬は必ず春となる。いまだ昔より聞かず、見ず、冬の秋とかへれる事を」

(宗祖 妙一尼御前御消息)

三月の声を聞くと、本格的な春の訪れが近づいた気がします。春の日差しを受けて、草木、樹木の息吹きに接すれば、大自然の四季の豊かさ、生命の不思議さと躍動を感じます。

一方で、自然界の恐ろしき、命の儂さ、人間の力の虚しさを感じます。今回の能登半島大地震のように、瞬時に、多大な損壊と犠牲により被災地の風景が一変し、多くの人の人生を狂わせました。

自然界の全ても、人の心の中も全て光と影(陽と陰)の両面を持っています。

あらゆるものは表裏一体に存在しますが、人は光(好きなこと・願うこと)のみを求め、影(嫌なこと・望まないこと)を遠ざけようとする気持ちが当たり前になっているのです。

仏様は、「人は日々多くの悩みを抱えていても、悩みの本質を直視していない。また自分自身の心の在り様こそが生きる上で最も大切だと教えていても、心の在り様には関心もなく、直前の不快や苦楽の結果ばかりを気にしています。

むことであると。その時、苦しかった体験が何時しか人生を羽ばたかせてくれる大きな翼に変わるのだと。(鳥が天空を自由に飛ぶように)

宝石は磨かなければ光らないように、人は試練がなければ本当に輝かないのです。ご神仏は、その人が乗り越えられない試練は与えないと云われます。

三重苦(眼が見えない・耳が聞こえない・話せない)を抱え、沈黙と暗闇の中で力強く生き、奇跡の人と呼ばれた「ヘレンケラー」は、「個性は安らぎや静けさの中で生まれるものではありません。試練や苦しみを経験することのみ、魂が鍛えられ、洞察力が研ぎ澄まされ、成功が手に入るのです」と述べています。

試練という字は試されると書きます。

己の心の在り様を、より正して魂の向上のために神仏から与えられた試練と受け止めることも大事だと説かれます。

人はどう生きるべきなのか。何事にも壊れない幸せを掴み生きる道とは、神仏から授かった菩提心を保つことだと示されています。

菩提心を起こすとは、自分の幸せはもとより、他人の幸せをも願って生きる慈愛の心が芽生えることだと云われます。

他人と共に助け合って生きる力が、巡り巡って自分を支える大きな力ともなるのです。

ところで人間と猿の遺伝子は九十九%同じということですが、喜怒哀楽は人も猿も同じでも、人間は動物と違って、意識的に、自分の生き方を考え、コントロール

かりに気にして生きている」と云われます。悩みの根本的な解決を望んでいないのだと。

人生で出会った苦楽には必ず意味を含んでいると云われます。例えばそれが耐えたい哀しみであっても、それを受け入れ乗り越えていく中で、明るい光が必ず見えてくるのだと。

次のような仏様の説話があります。ある時仏様が鳥を目の前に呼び、こう呼びかけられた。「あなたは今日からこの二枚の羽を付けなさい」と。鳥はそれまで羽がなく、飛ぶことも知らなかったとのこと。仏様に云われたので、しぶしぶ両肩に羽を付けたが重かったのですぐ外したのです。



しかし仏様が見ているので、付けなければならぬと意を決して両脇につけたのです。すると羽が体にくっついて、バタバタしていると何時の間にか体が天高く舞い上がっていった。それ以来、鳥は空を飛ぶようになったということです。

この教えで云わんとされていることは、人は嫌なことは避けて通りたいと誰もが思います。しかしその辛いことから目を背けようとする考えは生きている上で逆に重荷にしかならないと。鳥と羽が別々だったように、人生はどんな体験に出会っても、そこから気持ちが悪くなることなく、辛いことでも自分が正面から受け止め、受け入れていかなければならない体の一部(鳥と羽は一体)なのだとなり、立ち止まらずに前を見て進

ールする能力が備わっています。

自己に対する攻撃か防衛かを考える猿(動物)と違って、自己をしっかり振り返り、かつ、他者をも思いやる菩提心の発芽が、残り1%の違いに関係している気がします。

法華経は、私達が抱く様々な困難や試練、それを解決する問いかけに答えてくれる教えです。

日蓮聖人は冒頭の文のように、この経を信じる人は冬のごとしと云われます。人生でひどく辛い目や困難にあつて苦しみ、心が冬のように冷たくなっている時には、その本当の解決のために法華経の門の前に立つことが大事なのだ。必ず苦しみを溶かす鍵があり、心の春が得られるのだと。



季節が巡り、冬が必ず春となるように、人生にも心にも四季の巡りがあります。晩年に「我が人生に悔いなし」と言える人でも失敗のない人はいません。

長い人生には、幸運あり、不運あり、成功あり、失敗あり、山あり、谷あり・・・それぞれの体験が皆、かけがえのない貴重なものであったと気付ける生き方が大事であると云われます。

今月は春のお彼岸を迎えます。亡きご先祖の御霊の想いを引き継いで、今私達がここに生きているという命の重みを忘れず、感謝の気持ちを供養という行為で表していくことが大切です。